

事務事業名	ことばの教室事業	担当	健康福祉部	こども家庭課	こども家庭課	家庭相談係
政策名	02 「笑顔づくり」～安心と元気アップ!～	施策名	9	子育て支援の充実		
成果指標	名称	単位	2 年度実績			
	言葉の発達に遅れのある就学前の幼児のうち利用した幼児の割合	%	33.3			
	新たに教室につながった幼児の割合	%	75			
	利用前に比べ問題が改善された幼児の割合	%	100			
事業概要	事業主体：市 対象：言葉の発達に遅れのある就学前の幼児(年中、年長児)及び父母 形式：週1回又は隔週1回、1回あたり50分間の専任指導員2人による個別指導 費用：無料					
2 年度実績・成果・課題	利用幼児数：23人、開催回数：延べ379回 事業費：2,125(千円) ・療育先がっぱいのなか、発達に課題のある児の個別指導により、着席して活動出 来たり、言葉の発達の遅れが改善された児は多い。 ・児の発達評価が難しいため、初回の面接でアセスメントをしているが、児の発達はどう改善していったかの見立てが難しい面もある。					
今後の方向性と具体策	<input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない) 【具体的な改善案】 ・児の発達評価では、数か月後に保護者との面談で児の様子などを聞き取り、できたことを返し、児への関りのなかでよい言葉かけができるように促す。 ・R4年以降に、子ども発達支援センターのセンター化に伴い、心理士、言語療法士等の専門職が配置されると、本事業の在り方も検討できる。センターの中で発達がグレーな子ども何らかの療育ができるとよい。					